

恒例の昭和展、今年も懐かしいおもちゃがいっぱい！



そらんぽ四日市  
ホームページ

「昭和の暮らし展」の季節がやってきました。本展では、昭和30年代と昭和初期を中心に、人々の暮らしがどのように移り変わってきたのかを紹介します。会場では、生活の全体像を捉え、当時の暮らしそのものが体感できます。

今年は、整備休館もあり、開催期間が2月11日(祝)からの1カ月しかありませんが、昨年よりさらに充実させています。今回の目玉展示は昨年度に引き続き、懐かしいおもちゃと大人のホビーのコーナーです。私たちの生活の中に必ずあったおもちゃは、人々の生活に潤いを与え、情操を豊かにしてく

れるとても大切な一面があります。おもちゃには時代背景がより濃く表れているので、おもちゃを通して当時を振り返ってみてはいかがでしょうか。

今年も、この展覧会が皆さんの「今の暮らし」を見つめ直す機会になることを願っています。

では、2月に会場でお会いしましょう。



懐かしいおもちゃ

☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

戦国四日市の首塚？

保々の中世旧跡

人権プラザ小牧の向かいに、石柵や生垣で囲まれた区画があります。説明板には「保々の中世旧跡」と書かれています。いったい何があるのでしょうか。

中には、円形に盛られた砂利の中央に墓石らしきものが立っています。これこそ戦国時代の茂福城主で、<sup>たきがわがず</sup>滝川一益に長嶋城に誘い出され、討ち取られた<sup>もちぶく</sup>茂福(朝倉) <sup>みつとよ</sup>盈豊を葬った首塚と伝えられるものなのです。

なぜ、茂福の城主の首が、本拠地の茂福ではなく保々に運ばれたのでしょうか。

当時の保々には、朝倉氏の築いた保々西城や市場城などがありました。

朝倉氏は室町幕府の将軍に仕える奉公衆の一人であり、北勢の有力領主でした。その勢力は茂福にも及びそこでは茂福氏を名乗りました。

「保々の中世旧跡」の北には、朝倉氏の菩提寺とされる大樹寺があり、かつてこの地は大樹寺の境内であったことを想像させます。

ひっそりと佇む景色の奥に、激動の中世の面影が浮かび上がります。



伝茂福盈豊首塚

☎ 文化課 (TEL) 354-8240 (FAX) 354-4873